

常なる磐

つねなる いわ

令和3年1月29日(金)

その2

◇ 児童用ロッカーの話②

もう一度、写真をご覧いただこう。

<◎年生>



<★年生>



<□年生>



★共通事項 その2：【ロッカーの利用方法】

ご覧のように本校では、全学年とも児童用ロッカーを個人で3か所使用できる環境（縦1列の使用環境）にある。小規模校がもたらすこの環境があるがゆえに「登校時の持ち物の軽量化＝置き用具」を断行できた。

写真に見るロッカーの使用状況から、担任の連携が窺い取れる。最上段はランドセル。最下段は絵の具セットや習字道具、体育館シューズなど、机中に収納できない個人持ち物。そして2段目が置き用具と使用方法の統一が図られている。

さらに、置き用具の2段目に着目すると、右の写真のように、教科書等が整頓しやすいように箱に入れてある。この箱、実は「お道具箱の蓋」である。授業で常時使用のお道具箱は机の中だ。

蓋がないので管理は大変だが、これも仕方なし。かえって使い易さは向上するかもしれない。



なぜ「お道具箱の蓋」を利用するのか。担任たちと話をすると、そこには担任だからこそ気付く理由があった。

置き用具を行う以上、先日の夜もしくは翌朝に行っていた「学習用具の整え」を登校後に教室で行う必要が生じる。というより、やらせるべきだと考える。

授業準備は、生きる力を養う大切な習慣である。これを取り除いてしまうのは、かえって子供の伸長を止めることにもつながる。

そこで、朝の段階で「自分で必要な用具を整える」のである。

準備するのを忘れて、あわてて授業中に用具を取りに行くのは論外。指導を受けるのは当然だ。「わすれました」「すみません」と担任に伝え、次に同じ過ちをしないように段階を踏ませる。すると、「失敗」が【経験】に変わる。

授業直前の休憩の時間を使って準備をするのもよくない。その場しのぎは、マイナスの経験と姿を変える。

しかし、自分で気づいて取りに行くのは別。あらかじめ授業の準備をして確かめている行為が加わる。そして失敗しないように対応する。これはプラス経験。

だから、朝、登校したところで、登校時に持参した持ち物と置き用具とで「自分で必要に用具を整える」。これまで家庭で行ってきたことを学校で行えばよい。

その際、置き用具を取り出しやすく、持ち運びやすくするために、「お道具箱の蓋」を利用するのである。

用具揃えを行う上で、背表紙が見えて確認できるのならまだしも、2段目のロッカーで棒積みになっている教科書等から必要なものだけ選（よ）るのは、高学年でも難しい。

子供が全てをロッカーから出して、自分の机で用具を整えることを担任は想定し、ひとまとめて対応できる箱の利用を思いついた。

箱であれば、箱のふちに指をひっかけて手前にさっと引き寄せることもできる。箱をしまう時も、箱の一部をロッカーに引っ掛け、そっと押し込めばよい。

なるほどである。

これなら、自分の机で準備ができる。床の上で教科書を並べたり、ロッカーの上を使って共用スペースを独り占めしたりすることもない。

子供の動きを想定しつつ、さらに効率的な方法を考えた。
そして共有する。すると「学校のきまり」となる。

さて、本日で2週間の試行期間は終了。しかし、持ち物の軽量化＝置き用具はマイナーチェンジを経ながら継続的に行っていく。

また、新たなアイデア手法が加わるかもしれない。
子供たちから提案があれば、最高である。